

前回はサプライズな強さで、追加利上げ期待を押し上げ＝米雇用統計

2026年9月28日(月)

2日に9月の米雇用統計が発表されます。前回8月の米雇用統計は非農業部門雇用者数(NFP)が前月比+16.3万人と、市場予想の+5.3万人を大きく上回る好結果となりました。速報時点で予想外の前月比マイナスとなっていた7月分も+2.1万人まで上方修正され、6月分も改定値の+2.0万人から+3.1万人に上方修正となっています。失業率は4.1%で7月から横ばいとなりましたが、労働参加率が61.6%と0.2ポイントの改善となる中での横ばい(一般的に労働参加率が上昇すると、失業率は悪化します)となっており、好印象となりました。また、広義の失業率であるU6失業率が7.7%と7月の7.9%から改善しました。
※U6失業率: 正規雇用を望みながらパートタイムに従事している非自発的パートタイマーや、調査期間中に求職活動を行わなかったものの、過去12カ月のうちに求職活動を行っており、労働の意思があるとみられる者を含んだ広義の失業率

非農業部門雇用者数の内訳を確認すると、直近2カ月続けてマイナスとなり、全体を押し下げている娯楽・接客部門が+6.2万人と力強さを見せました。飲食業が+5.92万人となり全体を押し上げています。慢性的に人手不足で雇用増が続く介護・ケア部門を含む教育・医療部門は+2.9万人と堅調。7月もプラス圏でしたが+1.2万人と伸びが鈍くなっていました。AIデータセンターの建設ラッシュが続く中、建設業が+2.2万人と好調さを維持。製造業も+1.6万人と堅調で、鉱業を含めた財部門全体で+4.1万人と7月の+2.9万人を上回る伸びとなっています。上下が比較的激しい情報業は-2.3万人と弱く、金融も-1.1万人と7月と同水準の減少となっていますが、全体でみると幅広い業種で伸びを示しています。

続いて関連指標です。週間ベースの新規失業保険申請件数は、基準日である12日を含む週の比較で、8月が20.7万件、9月が19.8万件と、9月がやや好結果となっています。

それ以外の主な関連指標はこれからの発表です。29日23時の9月コンファレンスボード消費者信頼感指数の市場予想は90.1。前回8月分は89.4と市場予想の90.2、および7月分の90.2(90.8から下方修正)を下回る弱さを見せました。内訳のうち期待指数が68.2と前回の74.0から大きく鈍化したことで全体が押し下げられました。一方雇用部門に関しては、職が十分にあるとの回答が27.0と7月の24.4から上昇し、3月以来の高水準となる一方で、職を探すのが困難であるとの回答が19.5と7月の21.7から低下しました。両者の差である雇用機会判断指数は+7.5と7月の+2.7から上昇しています。今回は全体の数字も小幅回復見込み、雇用部門もしっかりした数字を維持すると好印象になります。

同時刻に発表される8月の米雇用動態調査(JOLTS)は注目度の高い求人件数の予想が722.5万件と前回から大幅減少見込みです。前回7月分は727.1万件と、市場予想の730万件を小幅下回りました。6月分は速報の735.9万件から718.2万件へ下方修正されています。その他の項目では解雇率が1.0%に低下。レイオフは歴史的な低水準となっています。採用率は3.2%と6月の3.4%から低下しており、雇用の流動性が低下しているものの、解雇も少なく、低位安定している状況が示されました。今回の数字もやや弱めの見込み。予想からの乖離が大きいことがある指標だけに要注意です。

30日21時15分には9月のADP全米雇用レポートが発表されます。雇用者数の予想は前月比+7.0万人。前回8月分は+3.8万人と市場予想の+4.8万人を下回りました。製造業の雇用減が全体を押し下げましたが、娯楽・接客業が好調。8月の米雇用統計同様にAIデータセンター建設ラッシュもあり建設業も好調となりました。今回はややしっかりした数字になる見込みです。

1日23時には9月のISM製造業景気指数が発表されます。前回8月は54.6と市場予想の55.2を下回りました。7月の55.6からも低下しています。もっとも7月の55.6は2022年5月以来の高水準であり、54.6の水準自体は強いものとなります。内訳をみると、新規受注が53.7と7月の56.7から低下。雇用部門は51.2と7月の52.8から低下しています。投入価格指数が71.1で横ばいとなっており、価格の高止まり傾向が見られます。今回の予想は55.0と高水準を維持する見込みです。なお、ISM非製造業は5日の発表となります。

こうした状況を踏まえて今回の予想ですが、非農業部門雇用者数が前月比+10.0万人と、前回から伸びが鈍化する見込みです。もっとも直近3カ月の平均+7.1万人を上回る伸びで、ダラス連銀が算出するブレイクイーブン雇用者数(失業率を悪化させないために必要な雇用者数)の約3万人もしっかりと上回っており、雇用の堅調さが継続との印象です。失業率は4.1%で維持される見込みとなっています。予想前後であれば、米雇用の安定が意識されることで、米追加利上げのハードルが下がるとして、ドル高につながりそうです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によつてなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブソリューションサービス」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブソリューションサービス」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド